
望んだもの

勇者と魔王と死にかけの姫

津田花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

望んだもの

勇者と魔王と死にかけの姫

【Nコード】

N5430E

【作者名】

津田花

【あらすじ】

死にかけの姫がいた。彼女の目には勇者が写り、傍らには魔王がいた。白いドレスが赤く染まる中、3人が望むものは……。

私は姫だ。
死にかけの。

私の体がここで朽ち果てたとしても、魂は永遠に生き、目の前の男を呪うだろう。

私の腹を貫いたこの男を。
かつて愛したこの男を。

「貴様……誰に、何をしたか分かつ……ているのか？」

手に握られている大剣は、かつて私が授けた物だ。

「姫様には死んでいただきます。」

かつて優しい笑顔を見せていた顔には何も写さず、目や口がそこに存在するのみ。
かつて白かったこのドレスも、今や真紅に染まる。

「姫は死なん。」

隣からは私の醜い心を洗うような、心地よい声。

「貴様に今ここで殺され命を失おうと、俺に助けられ天寿を全うしようとして、姫の魂は生き続ける。」

こいつ、助けてくれるのか？

「黙れ！！悪魔！」

消えた表情に強い憎しみが現れた。

「悪魔ではない。魔王だ、勇者よ。」

そうだ、こいつは私から姫という日常をさらい、心を奪った魔王だ。

こいつも憎むべき相手だろうが、今は力無くこいつの体にすがってしまっている。

「直すなら……直せ、悪魔。」

ふと笑った表情が、私の心に火を灯す。

「姫！そのような者を信用しないで下さい！！奴の手に落ちるなら、他人に奪われるくらいなら、オレは！！」

まだあいつには私への思いがあったようだな。
もう私には必要ないが。

「第一、国の平和はどうなるんです？貴女の望んだ平和を貴女が壊してどうするんですか！？」

「私は、初めから……国の平和など望まぬ。ただただ己の平和を……望んでいた、愚か者だ。」

「そんな……姫様は……」

突然姫になれと言われ、そこまで心が育つはずもない。

「だが、そこまで言うのなら……人と魔人の……架け橋にならんことも無い。」

ドレスが染まる。
もう手遅れかもな。

目がかすむ。

きっと、私の朽ち果てそうな姿を楽しんでいるに違いない。
この悪魔は。

「姫は勇者を捨て魔王を選んだ。哀れな勇者よ、俺は姫を貰う。」

口から魔力が注がれる。

優しく、暖かく、私の中をかけ巡り、裂けた腹にたどり着くと急激に熱くなる。

癒されているのが分かる。

「俺が平和を与えよう。」

私は意識を手放した。

（後書き）

ありがとうございました。

暗いですねー。

暗い物が増えてきましたねー。

明るい物は短編にするのは難しいし、連載を書くのは時間が無いです。

悔しいです。

学生のみなさん！

就職したら時間がないですよ！

見てもらえるかも分かりませんが、叫んでみました。

では、またいつか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5430e/>

望んだもの

勇者と魔王と死にかけの姫

2010年12月2日15時17分発行